

|        |   |
|--------|---|
| 科目名    | 助産学概論   |
| 科目責任者  | 久保田 君枝  |
| 単位数他   | 1 単位 (15 時間) 必修 通年  |
| 科目的位置付 | 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた、高度な専門的知識・技術・態度を身につけ、高い倫理観と豊かな感性を取得し、助産業務を通して必要な実践や学問の発展に寄与できること。   |
| 科目概要   | 助産師の役割や責務、専門性について理解するために、助産学の基本的概念や助産活動等を学ぶ。今日の母子を取り巻く社会環境、保健・医療制度あるいは助産活動等を諸外国と比較、歴史的変遷を踏まえ理解を深める。さらに、講義・グループワーク等を通して自らの助産観を育成する。  |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産の基本概念を説明できる。</li> <li>2. 諸外国の出産ならびに助産活動について説明できる。</li> <li>3. 現代社会における助産活動の意義および助産師の役割と責任を説明できる。</li> <li>4. 子育て世代包括支援について説明できる</li> <li>5. リプロダクティブヘルス・ライツの視点から、女性の健康と予防について説明できる。</li> <li>6. わが国の児童虐待・子どもの貧困について説明できる。</li> <li>7. 討論を通して自らの助産観を表現することができる。</li> </ol>   |
| 授業計画   | <p style="text-align: center;">&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p style="text-align: right;">&lt;担当教員名&gt;</p> <p>第1回：助産の概念、リプロダクティブヘルス・ライツと課題 久保田君枝</p> <p>第2回：助産師業務と助産教育の諸外国の比較（討論）<br/>子育て世代包括支援 久保田君枝</p> <p>第3回：出産の変遷、「変わりゆく出産、変わらない出産」 菊池 栄</p> <p>第4回：子どもの困難／児童虐待・子どもの貧困 菊池 栄</p> <p>第5回：諸外国における出産および助産(師)活動 中山 綾</p> <p>第6-7回：性の文化・性志向の多様性とジェンダー 山田久美子</p> <p>第8回：助産実践に役立つ助産理論とは（討論） 久保田君枝 稲垣恵子 三輪与志子</p> |

|               |  |
|---------------|--|
| アクティブラーニング    | グループ学修、課題の発表   |
| 評価方法          | 筆記試験 50%、レポート 50%  |
| 課題に対するフィードバック | グループ・ワーク時のアドバイス、発表時のコメント<br>レポート、リアクションペーパーへのコメント  |
| 指定図書          | 『助産師基礎教育テキスト3 周産期における医療の質と安全』成田伸編、日本看護協会出版会<br>『助産学講座1 助産学概論』我部山キヨ子・武谷雄二編、医学書院<br>『助産学講座4 母子の心理・社会学』村瀬聰美・我部山キヨ子編、医学書院<br>『助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健』我部山キヨ子、毛利多恵子編、医学書院<br>『WHOの59カ条 お産のケア実践ガイド』戸田律子訳、農文協<br>『母子保健の主なる統計 [2018]』母子衛生研究会編<br>『厚生の指標 国民衛生の動向』財団法人厚生統計協会<br>『新版 助産師業務要覧第3版I 基礎編』福井トシ子編集、日本看護協会出版会<br>『新版 助産師業務要覧第3版II 実践編』福井トシ子編集、日本看護協会出版会<br>『新版 助産師業務要覧第3版III アドバンス編』福井トシ子編集、日本看護協会出版会 |
| 参考図書          | 必要に応じて随時提示します。<br>『新助産学 実践における科学と感性』レズリー・ページ著、鈴井江三子監訳、MC メディカ出版<br>『産み育てと助産の歴史 近代化の200年を振り返る』白井千晶編著、医学書院 2016  |
| 事前・事後学修       | 授業で使う資料は授業時あるいは事前に配布します。事前・事後学修に活用してください。<br>諸外国における助産師教育と助産業務について、事前学習をしてください。<br>助産実践に役立つ助産理論について事前学習してください。<br>わが国の児童虐待、子どもの貧困について、予備知識をもって授業に参加して下さい。  |
| オフィスアワー       | 金曜日の午後 研究室1715<br>久保田君枝 ; kimie-k@seirei.ac.jp   |
| 実務経験に関する記述    | 本科目の講師は地域において活動家として、助産師として豊かな実践を有している講師陣です。  |

|        |   |            |
|--------|---|------------|
| 科目名    | 生殖器の形態・機能   |            |
| 科目責任者  | 三輪 与志子  |            |
| 単位数他   | 1 単位 (30 時間) 必修 通年  |            |
| 科目的位置付 | 女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する権利を尊重し、女性の主体性を尊重したケアの実践者であること。  |            |
| 科目概要   | 助産の展開および妊孕性に関わる基礎的知識を学修する。男女の生殖器の発生と発達過程、女性生殖器の形態と機能の解剖学的・内分泌的・免疫学的特性を踏まえた上で、妊娠期の母体の変化、胎児・胎盤機能や胎児の発生及び分化、生殖器系の形態・構造の異常等を学ぶ。   |            |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産活動に必要な生殖系の形態・機能及びホルモン分泌機序について説明できる。</li> <li>2. 正常な妊娠・分娩・産褥および胎児・新生児の整理を説明できる。</li> <li>3. 女性のがんと妊娠・分娩との関連性が説明できる。</li> </ol> |            |
| 授業計画   | <授業内容・テーマ等>   | <担当教員名>    |
|        | 第1回：オリエンテーション   | 黒野智子・神崎江利子 |
|        | 第2回：1. 生殖器系の発生<br>男女生殖器の発達過程  | 黒野智子・神崎江利子 |
|        | 2. 形態・構造における男女差   |            |
|        | 3. 生理的機能における性差  |            |
|        | 4. 生殖機能と内分泌   |            |
|        | 5. 成熟女性の性周期、基礎体温  |            |
|        | 第3・4回：女性生殖器の形態・機能<br>子宮・子宮支持組織  | 黒野智子・神崎江利子 |
|        | 卵巣・卵管・子宮の血管系・骨盤・骨盤底・生殖器の神経系   |            |
|        | 乳腺、乳汁分泌の生理  |            |
|        | 第5回：妊娠・分娩・産褥および胎児・新生児の生理（1）   | 黒野智子・神崎江利子 |
|        | 第6回：妊娠・分娩・産褥および胎児・新生児の生理（1）   | 黒野智子・神崎江利子 |
|        | 第7回：妊娠・分娩・産褥および胎児・新生児の生理（1）   | 黒野智子・神崎江利子 |
|        | 第8回：まとめ   |            |
|        | 第9・10回：胎児期から老年期までのホルモン分泌機序  | 小林浩治       |
|        | 第11-13回：性行動と機能・妊娠の成立  | 浅沼栄里       |
|        | 第14・15回：女性のがんと妊娠・分娩との関連性  | 安達博        |

|               |   |
|---------------|---|
| アクティブラーニング    | グループ学修、課題の発表（学生が主体的にプレゼンテーションをします）  |
| 評価方法          | 筆記試験 80%、1～8回プレゼンテーション 20%  |
| 課題に対するフィードバック | レポート、リアクションペーパーへのコメント、課題に対する討論  |
| 指定図書          | 『助産師基礎教育テキスト2 女性の健康とケア』吉沢豊予子編 日本看護協会出版会<br>『助産学講座2 基礎助産学（2）母子の基礎科学』我部山キヨ子・武谷雄二他編、医学書院<br>『助産学講座3 基礎助産学（3）母子の健康科学』我部山キヨ子・武谷雄二他編、医学書院<br>『助産学基礎教育テキスト7 ハイリスクの妊娠褥婦・新生児へのケア』遠藤俊子編 日本看護協会出版会<br>『プリンシップル産婦人科科学2』武谷雄二他監修 メヂカルビュー社 |
| 参考図書          | なし  |
| 事前・事後学修       | プレゼンテーションで使う資料は、授業時あるいは事前に配布します。事前・事後学修に活用してください。<br>この授業では、事前学修40分程度、事後学修40分程度の学修を行ってください。   |
| オフィスアワー       | 三輪 与志子：1707 研究室 月曜日：16:30～18:30 水曜日：午前中<br>E-mail： <a href="mailto:yoshiko-m@seirei.ac.jp">yoshiko-m@seirei.ac.jp</a>   |
| 実務経験に関する記述    | 本学看護学部母性看護学の教員と聖隸浜松病院産婦人科医師、聖隸健康診断センターの産婦人科医師による講義です。   |

|  |   |                         |      |   |      |  |      |                              |      |  |      |  |      |                                |      |                                 |      |   |      |                                   |      |   |      |                            |      |                     |           |                  |      |
|--|---|-------------------------|------|---|------|--|------|------------------------------|------|--|------|--|------|--------------------------------|------|---------------------------------|------|---|------|-----------------------------------|------|---|------|----------------------------|------|---------------------|-----------|------------------|------|
| 科目名  | 周産期学  |                         |      |   |      |  |      |                              |      |  |      |  |      |                                |      |                                 |      |   |      |                                   |      |   |      |                            |      |                     |           |                  |      |
| 科目責任者  | 久保田 君枝  |                         |      |   |      |  |      |                              |      |  |      |  |      |                                |      |                                 |      |   |      |                                   |      |   |      |                            |      |                     |           |                  |      |
| 単位数他   | 2 単位 (60 時間) 必修 通年  |                         |      |   |      |  |      |                              |      |  |      |  |      |                                |      |                                 |      |   |      |                                   |      |   |      |                            |      |                     |           |                  |      |
| 科目的位置付   | 助産師として必要な母子およびその家族や地域の人々に寄り添い、対象を全人的に捉え、ニーズに応えるための高度な診断能力および科学的根拠に基づいた質の高い助産技術と実践力を身につけていくこと。   |                         |      |   |      |  |      |                              |      |  |      |  |      |                                |      |                                 |      |   |      |                                   |      |   |      |                            |      |                     |           |                  |      |
| 科目概要   | 周産期の各ステージにおける正常・異常の診断・管理を学習し支援方法について理解する。そのために、1)周産期の正常妊娠・分娩・産褥の診断・管理や支援、2)周産期の合併症、感染症、異常妊娠・分娩・産褥の診断・管理や支援、3)周産期の女性に投与される薬剤や実施される検査、4)胎児の異常と出生前診断、周産期の倫理 5)不妊女性と生殖医療への支援、6)新生児の正常・異常の診断・管理、7) ディベロップメンタルケア、ファミリーセンタードケア、親子関係の促進 4)遺伝看護・相談に関する知識と援助方法等を学ぶ。   |                         |      |   |      |  |      |                              |      |  |      |  |      |                                |      |                                 |      |   |      |                                   |      |   |      |                            |      |                     |           |                  |      |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>周産期における合併症、感染症、異常分娩への治療、医療介入や援助方法を説明できる。</li> <li>婦人科合併疾患について妊娠と関連させて説明できる。</li> <li>周産期の女性に投与される薬剤や、実施される検査について説明できる。</li> <li>生殖補助医療の概要について説明できる。</li> <li>不妊女性への援助方法を説明できる。</li> <li>女性の健康と遺伝医学・看護・相談に関する知識と援助方法を説明できる。</li> </ol>  |                         |      |   |      |  |      |                              |      |  |      |  |      |                                |      |                                 |      |   |      |                                   |      |   |      |                            |      |                     |           |                  |      |
| 授業計画   | <p style="text-align: center;">&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p style="text-align: right;">&lt;担当教員名&gt;</p> <table> <tbody> <tr> <td>第 1- 2 回 : 周産期における主要な検査</td> <td>井深京子</td> </tr> <tr> <td>第 3- 4 回 : 正常妊娠とその診断・管理, 異常妊娠とその診断・管理<br/>(妊娠初期から中期)</td> <td>小林光紗</td> </tr> <tr> <td>第 5- 6 回 : 正常妊娠とその診断・管理, 異常妊娠とその診断・管理<br/>(妊娠後半期)</td> <td>寺田周平</td> </tr> <tr> <td>第 7- 8 回 : ハイリスク妊娠・分娩・産褥期の管理</td> <td>大西雄一</td> </tr> <tr> <td>第 9-11 回 : 分娩期の診断・管理, 異常分娩の診断と管理<br/>(主に分娩の進行に関わるもの) 急速遂娩(鉗子、吸引、帝王切開)</td> <td>松下 充</td> </tr> <tr> <td>第 12-13 回 : 分娩期・産褥期の診断・管理, 異常分娩の診断と管理<br/>(主に出血および産科救急に関わるもの)</td> <td>鈴木貴士</td> </tr> <tr> <td>第 14 回 : 産褥期の診断・管理, 産褥異常の診断と管理</td> <td>曾我江里</td> </tr> <tr> <td>第 15-16 回 : 生殖のメカニズム, 生殖補助医療の概要</td> <td>望月 修</td> </tr> <tr> <td>第 17-18 回 : 胎児の異常と出生前診断, 周産期の倫理<br/>妊娠婦死亡、産科医療保障制度</td> <td>村越 豊</td> </tr> <tr> <td>第 19-20 回 : 異常徵候・疾患・緊急手術を要する新生児疾患</td> <td>白井憲司</td> </tr> <tr> <td>第 21-22 回 : ディベロップメンタルケア、両親の心理的危機への支援と親子関係の促進</td> <td>寺部宏美</td> </tr> <tr> <td>第 23-26 回 : 合併症等をもつ妊娠婦への看護</td> <td>中村智美</td> </tr> <tr> <td>第 27-28 回 : 遺伝看護・相談</td> <td>入江晶子、大村由実</td> </tr> <tr> <td>第 29-30 回 : 不妊看護</td> <td>松尾七重</td> </tr> </tbody> </table> | 第 1- 2 回 : 周産期における主要な検査 | 井深京子 | 第 3- 4 回 : 正常妊娠とその診断・管理, 異常妊娠とその診断・管理<br>(妊娠初期から中期) | 小林光紗 | 第 5- 6 回 : 正常妊娠とその診断・管理, 異常妊娠とその診断・管理<br>(妊娠後半期) | 寺田周平 | 第 7- 8 回 : ハイリスク妊娠・分娩・産褥期の管理 | 大西雄一 | 第 9-11 回 : 分娩期の診断・管理, 異常分娩の診断と管理<br>(主に分娩の進行に関わるもの) 急速遂娩(鉗子、吸引、帝王切開) | 松下 充 | 第 12-13 回 : 分娩期・産褥期の診断・管理, 異常分娩の診断と管理<br>(主に出血および産科救急に関わるもの) | 鈴木貴士 | 第 14 回 : 産褥期の診断・管理, 産褥異常の診断と管理 | 曾我江里 | 第 15-16 回 : 生殖のメカニズム, 生殖補助医療の概要 | 望月 修 | 第 17-18 回 : 胎児の異常と出生前診断, 周産期の倫理<br>妊娠婦死亡、産科医療保障制度 | 村越 豊 | 第 19-20 回 : 異常徵候・疾患・緊急手術を要する新生児疾患 | 白井憲司 | 第 21-22 回 : ディベロップメンタルケア、両親の心理的危機への支援と親子関係の促進 | 寺部宏美 | 第 23-26 回 : 合併症等をもつ妊娠婦への看護 | 中村智美 | 第 27-28 回 : 遺伝看護・相談 | 入江晶子、大村由実 | 第 29-30 回 : 不妊看護 | 松尾七重 |
| 第 1- 2 回 : 周産期における主要な検査  | 井深京子  |                         |      |   |      |  |      |                              |      |  |      |  |      |                                |      |                                 |      |   |      |                                   |      |   |      |                            |      |                     |           |                  |      |
| 第 3- 4 回 : 正常妊娠とその診断・管理, 異常妊娠とその診断・管理<br>(妊娠初期から中期)                  | 小林光紗  |                         |      |   |      |  |      |                              |      |  |      |  |      |                                |      |                                 |      |   |      |                                   |      |   |      |                            |      |                     |           |                  |      |
| 第 5- 6 回 : 正常妊娠とその診断・管理, 異常妊娠とその診断・管理<br>(妊娠後半期)                     | 寺田周平  |                         |      |   |      |  |      |                              |      |  |      |  |      |                                |      |                                 |      |   |      |                                   |      |   |      |                            |      |                     |           |                  |      |
| 第 7- 8 回 : ハイリスク妊娠・分娩・産褥期の管理   | 大西雄一  |                         |      |   |      |  |      |                              |      |  |      |  |      |                                |      |                                 |      |   |      |                                   |      |   |      |                            |      |                     |           |                  |      |
| 第 9-11 回 : 分娩期の診断・管理, 異常分娩の診断と管理<br>(主に分娩の進行に関わるもの) 急速遂娩(鉗子、吸引、帝王切開) | 松下 充  |                         |      |   |      |  |      |                              |      |  |      |  |      |                                |      |                                 |      |   |      |                                   |      |   |      |                            |      |                     |           |                  |      |
| 第 12-13 回 : 分娩期・産褥期の診断・管理, 異常分娩の診断と管理<br>(主に出血および産科救急に関わるもの)         | 鈴木貴士  |                         |      |   |      |  |      |                              |      |  |      |  |      |                                |      |                                 |      |   |      |                                   |      |   |      |                            |      |                     |           |                  |      |
| 第 14 回 : 産褥期の診断・管理, 産褥異常の診断と管理                                       | 曾我江里  |                         |      |   |      |  |      |                              |      |  |      |  |      |                                |      |                                 |      |   |      |                                   |      |   |      |                            |      |                     |           |                  |      |
| 第 15-16 回 : 生殖のメカニズム, 生殖補助医療の概要                                      | 望月 修  |                         |      |   |      |  |      |                              |      |  |      |  |      |                                |      |                                 |      |   |      |                                   |      |   |      |                            |      |                     |           |                  |      |
| 第 17-18 回 : 胎児の異常と出生前診断, 周産期の倫理<br>妊娠婦死亡、産科医療保障制度                    | 村越 豊  |                         |      |   |      |  |      |                              |      |  |      |  |      |                                |      |                                 |      |   |      |                                   |      |   |      |                            |      |                     |           |                  |      |
| 第 19-20 回 : 異常徵候・疾患・緊急手術を要する新生児疾患                                    | 白井憲司  |                         |      |   |      |  |      |                              |      |  |      |  |      |                                |      |                                 |      |   |      |                                   |      |   |      |                            |      |                     |           |                  |      |
| 第 21-22 回 : ディベロップメンタルケア、両親の心理的危機への支援と親子関係の促進                        | 寺部宏美  |                         |      |   |      |  |      |                              |      |  |      |  |      |                                |      |                                 |      |   |      |                                   |      |   |      |                            |      |                     |           |                  |      |
| 第 23-26 回 : 合併症等をもつ妊娠婦への看護   | 中村智美  |                         |      |   |      |  |      |                              |      |  |      |  |      |                                |      |                                 |      |   |      |                                   |      |   |      |                            |      |                     |           |                  |      |
| 第 27-28 回 : 遺伝看護・相談  | 入江晶子、大村由実   |                         |      |   |      |  |      |                              |      |  |      |  |      |                                |      |                                 |      |   |      |                                   |      |   |      |                            |      |                     |           |                  |      |
| 第 29-30 回 : 不妊看護   | 松尾七重  |                         |      |   |      |  |      |                              |      |  |      |  |      |                                |      |                                 |      |   |      |                                   |      |   |      |                            |      |                     |           |                  |      |

|                       |   |
|-----------------------|---|
| アクティブ<br>ラーニング        | グループ学修  |
| 評価方法                  | 筆記試験 90%、レポート 10%   |
| 課題に対する<br>フィード<br>バック | リアクションペーパーへのコメント  |
| 指定図書                  | <p>『助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ [1]妊娠期』我部山キヨ子・武谷雄二他編、医学書院</p> <p>『助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2]分娩期・産褥期』我部山キヨ子・武谷雄二他編、医学書院</p> <p>『プリンシップル産科婦人科学 2』武谷雄二他監修、メジカルビュー社</p> <p>『助産学講座 2 基礎助産学(2) 母子の基礎科学』我部山キヨ子・武谷雄二他編、医学書院</p> <p>『助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3]新生児・乳幼児期』横尾京子他編、医学書院</p> <p>『新生児学入門』第5版 仁志田博司、医学書院</p> <p>『産婦人科診療ガイドライン 産科編 2014』日本産婦人科学会/日本産婦人科医会編</p> <p>『院内助産・助産外来ガイドライン 2018』日本看護協会</p> |
| 参考図書                  | <p>『最新産科学・正常編』荒木勤著、文光堂</p> <p>『子育て世代包括支援センター業務ガイドライン 2017』厚生労働省</p> <p>『帝王切開バイブル 術前・術中・術後のアセスメント&amp;ケアを時系列で網羅!』村越 育編著、PERINATAL CARE 2018年新春増刊号 MC メディカ出版 2018</p>   |
| 事前・<br>事後学修           | 授業で使う資料は授業時あるいは事前に配布します。事前・事後学修に活用してください。<br>この授業は、参考図書、指定図書の関連箇所を事前学修、事後学修に活用して下さい。  |
| オフィス<br>アワー           | 金曜日の午後 研究室 1715<br>久保田君枝 ; <a href="mailto:kimie-k@seirei.ac.jp">kimie-k@seirei.ac.jp</a>   |
| 実務経験に<br>に関する記述       | この科目は臨床で実践経験を豊かに有している医師、助産師、専門看護師、認定看護師が講師です。   |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | 乳幼児の成長発達   |
| 科目責任者  | 市江 和子  |
| 単位数他   | 1 単位 (15 時間) 必修 秋セメスター   |
| 科目的位置付 | 助産師として必要な、人間や環境への思いやりを大切にし、母子およびその家族を尊重し、助産師としての役割と責任を果たす能力を習得していること。  |
| 科目概要   | 乳幼児の良好な心身の発育・発達に必要な養育・看護に関する基礎的な知識と技術を学習する。そのために、小児の正常な成長・発達、特徴を理解し、乳幼児をもつ家族への支援方法を学ぶ。   |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児の成長・発達を理解する。</li> <li>2. 乳幼児をもつ家族への保健指導について理解する。</li> <li>3. 乳幼児の健康診査と実際を理解する。</li> <li>4. 乳幼児の健康障害と看護・支援方法を理解する。</li> </ol>   |
| 授業計画   | <p style="text-align: center;">&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p style="text-align: right;">&lt;担当教員名&gt;</p> <p>第1回： 小児の成長・発達①：成長・発達の基本的な考え方<br/>成長・発達に関するワークシートと自己学習の進め方</p> <p>第2回： 小児の成長・発達②：発達理論</p> <p>第3回： 小児の成長・発達③：成長・発達評価の意義と方法</p> <p>第4回： 乳幼児の栄養</p> <p>第5回： 乳幼児の健康診査<br/>乳幼児健診に関するワークシートと自己学習の進め方</p> <p>第6回： 乳幼児の健康診査の実際<br/>乳幼児健診に関するグループワーク</p> <p>第7回： 乳幼児の健康増進と疾病予防</p> <p>第8回： 乳幼児の健康障害と家族への看護</p> |

|               |   |
|---------------|---|
| アクティブラーニング    | 「小児の成長・発達③、成長・発達評価と意義と方法」においては、小グループで演習を取り入れ、発達評価の演習を実施する。<br>乳幼児の健康診査においては、事前課題を個人で実施すると共に、グループワークを行う。                       |
| 評価方法          | 筆記試験 100%<br>ループリックは用いない。   |
| 課題に対するフィードバック | 「成長・発達」、「乳幼児の健康診査」に関するワークシートの字是課題について、授業の関係する講義内容時に、課題についてフィードバックを行う。   |
| 指定図書          | 我部山キヨ子・武谷雄二編：『助産学講座3 基礎助産学[3] 母子の健康科学』 医学書院<br>我部山キヨ子・武谷雄二他編：『助産学講座8 助産診断・技術学II [3]新生児期・乳幼児期』 医学書院<br>市江和子編：『小児看護学』、オーム社、2017 |
| 参考図書          | 授業中に随時連絡する。   |
| 事前・事後学修       | 成長・発達、乳幼児健診に関するワークシートについて、事前学修を40分進める。適宜、ミニテストを実施するので、事後学修で復習を行う。   |
| オフィスアワー       | 金曜日午前（1712研究室）  |
| 実務経験に関する記述    | 本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。  |

| 科目名                                  | 健康教育論   |  |             |         |              |       |                                 |       |                                |       |                        |       |                   |                   |                      |       |                   |                  |                          |       |                   |                  |                                      |       |
|--------------------------------------|---|--|-------------|---------|--------------|-------|---------------------------------|-------|--------------------------------|-------|------------------------|-------|-------------------|-------------------|----------------------|-------|-------------------|------------------|--------------------------|-------|-------------------|------------------|--------------------------------------|-------|
| 科目責任者                                | 久保田 君枝  |  |             |         |              |       |                                 |       |                                |       |                        |       |                   |                   |                      |       |                   |                  |                          |       |                   |                  |                                      |       |
| 単位数他                                 | 2 単位 (60 時間) 必修 通年  |  |             |         |              |       |                                 |       |                                |       |                        |       |                   |                   |                      |       |                   |                  |                          |       |                   |                  |                                      |       |
| 科目的位置付                               | 助産師として必要な母子およびその家族や地域の人々に寄り添い、対象を全人的に捉え、ニーズに応えるための高度な診断能力および科学的根拠に基づいた質の高い助産技術と実践力を身に付けていくこと。   |  |             |         |              |       |                                 |       |                                |       |                        |       |                   |                   |                      |       |                   |                  |                          |       |                   |                  |                                      |       |
| 科目概要                                 | 母親が自分自身の問題として健康問題をとらえ、解決できるように支援していくための保健指導や技術を学修する。そのために、健康教育の概念や方法を理解し、妊娠・分娩・産褥期における個人や小集団を対象とした健康教育の意義と実践のプロセスを学ぶ。また、周産期各期の特徴や課題を理解し、事例を通して科学的根拠に基づいた支援を立案し、演習を行う。   |  |             |         |              |       |                                 |       |                                |       |                        |       |                   |                   |                      |       |                   |                  |                          |       |                   |                  |                                      |       |
| 到達目標                                 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健指導や健康教育の概念を理解することができる。</li> <li>2. 保健指導や教育技術を学ぶことができる。</li> <li>3. 妊娠・分娩・産褥期の特徴を理解し、指導案とパンフレット等を作成し発表することができる。</li> </ol>   |  |             |         |              |       |                                 |       |                                |       |                        |       |                   |                   |                      |       |                   |                  |                          |       |                   |                  |                                      |       |
| 授業計画                                 | <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center; width: 50%;">&lt;授業内容・テーマ等&gt;</th> <th style="text-align: center; width: 50%;">&lt;担当教員名&gt;</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回： 健康教育の概念</td> <td style="text-align: right;">久保田君枝</td> </tr> <tr> <td>第2回： 保健指導の種類や方法論 個別・集団指導の種類や方法論</td> <td style="text-align: right;">久保田君枝</td> </tr> <tr> <td>第3回： 企画書および指導案の作成、媒体の選択・作成・使い方</td> <td style="text-align: right;">久保田君枝</td> </tr> <tr> <td>第4-9回： 妊娠期の保健指導グループワーク</td> <td style="text-align: right;">三輪与志子</td> </tr> <tr> <td>第10-12回： 発表およびまとめ</td> <td style="text-align: right;">三輪与志子、稻垣恵子、久保田君枝、</td> </tr> <tr> <td>第13-17回： 分娩期のグループワーク</td> <td style="text-align: right;">久保田君枝</td> </tr> <tr> <td>第18-20回： 発表およびまとめ</td> <td style="text-align: right;">久保田君枝、稻垣恵子、三輪与志子</td> </tr> <tr> <td>第21-26回： 産褥・新生児期のグループワーク</td> <td style="text-align: right;">稻垣 恵子</td> </tr> <tr> <td>第27-29回： 発表およびまとめ</td> <td style="text-align: right;">稻垣恵子、久保田君枝、三輪与志子</td> </tr> <tr> <td>第30回： 母子の家庭訪問と保健指導 時期は新生児訪問前の7月頃（予定）</td> <td style="text-align: right;">斎藤 由美</td> </tr> </tbody> </table> |  | <授業内容・テーマ等> | <担当教員名> | 第1回： 健康教育の概念 | 久保田君枝 | 第2回： 保健指導の種類や方法論 個別・集団指導の種類や方法論 | 久保田君枝 | 第3回： 企画書および指導案の作成、媒体の選択・作成・使い方 | 久保田君枝 | 第4-9回： 妊娠期の保健指導グループワーク | 三輪与志子 | 第10-12回： 発表およびまとめ | 三輪与志子、稻垣恵子、久保田君枝、 | 第13-17回： 分娩期のグループワーク | 久保田君枝 | 第18-20回： 発表およびまとめ | 久保田君枝、稻垣恵子、三輪与志子 | 第21-26回： 産褥・新生児期のグループワーク | 稻垣 恵子 | 第27-29回： 発表およびまとめ | 稻垣恵子、久保田君枝、三輪与志子 | 第30回： 母子の家庭訪問と保健指導 時期は新生児訪問前の7月頃（予定） | 斎藤 由美 |
| <授業内容・テーマ等>                          | <担当教員名>   |  |             |         |              |       |                                 |       |                                |       |                        |       |                   |                   |                      |       |                   |                  |                          |       |                   |                  |                                      |       |
| 第1回： 健康教育の概念                         | 久保田君枝   |  |             |         |              |       |                                 |       |                                |       |                        |       |                   |                   |                      |       |                   |                  |                          |       |                   |                  |                                      |       |
| 第2回： 保健指導の種類や方法論 個別・集団指導の種類や方法論      | 久保田君枝   |  |             |         |              |       |                                 |       |                                |       |                        |       |                   |                   |                      |       |                   |                  |                          |       |                   |                  |                                      |       |
| 第3回： 企画書および指導案の作成、媒体の選択・作成・使い方       | 久保田君枝   |  |             |         |              |       |                                 |       |                                |       |                        |       |                   |                   |                      |       |                   |                  |                          |       |                   |                  |                                      |       |
| 第4-9回： 妊娠期の保健指導グループワーク               | 三輪与志子   |  |             |         |              |       |                                 |       |                                |       |                        |       |                   |                   |                      |       |                   |                  |                          |       |                   |                  |                                      |       |
| 第10-12回： 発表およびまとめ                    | 三輪与志子、稻垣恵子、久保田君枝、   |  |             |         |              |       |                                 |       |                                |       |                        |       |                   |                   |                      |       |                   |                  |                          |       |                   |                  |                                      |       |
| 第13-17回： 分娩期のグループワーク                 | 久保田君枝   |  |             |         |              |       |                                 |       |                                |       |                        |       |                   |                   |                      |       |                   |                  |                          |       |                   |                  |                                      |       |
| 第18-20回： 発表およびまとめ                    | 久保田君枝、稻垣恵子、三輪与志子  |  |             |         |              |       |                                 |       |                                |       |                        |       |                   |                   |                      |       |                   |                  |                          |       |                   |                  |                                      |       |
| 第21-26回： 産褥・新生児期のグループワーク             | 稻垣 恵子   |  |             |         |              |       |                                 |       |                                |       |                        |       |                   |                   |                      |       |                   |                  |                          |       |                   |                  |                                      |       |
| 第27-29回： 発表およびまとめ                    | 稻垣恵子、久保田君枝、三輪与志子  |  |             |         |              |       |                                 |       |                                |       |                        |       |                   |                   |                      |       |                   |                  |                          |       |                   |                  |                                      |       |
| 第30回： 母子の家庭訪問と保健指導 時期は新生児訪問前の7月頃（予定） | 斎藤 由美   |  |             |         |              |       |                                 |       |                                |       |                        |       |                   |                   |                      |       |                   |                  |                          |       |                   |                  |                                      |       |

|                       |   |
|-----------------------|---|
| アクティブ<br>ラーニング        | グループ学修、課題の発表  |
| 評価方法                  | 妊娠期、分娩期、産褥・新生児期の各グループの発表 70%<br>グループワーク参加状況とグループ討議 30%  |
| 課題に対する<br>フィード<br>バック | グループ・ワーク時のアドバイス、発表時のコメント<br>リアクションペーパーへのコメント、課題に対する討論   |
| 指定図書                  | 『助産学講座 2 基礎助産学[2]母子の基礎科学』我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院<br>『助産学講座 3 基礎助産学[3]母子の健康科学』我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院<br>『助産学講座 4 基礎助産学[4]母子の心理・社会学』村瀬聰美・我部山キヨ子編集、医学書院<br>『助産学講座 5 助産診断・技術学 I』堀内成子編集、医学書院<br>『保健学講座別巻 1 健康教育論』宮坂忠夫他編、メジカルフレンド社 |
| 参考図書                  | 『行動科学 健康づくりのための理論と応用』、畠 栄一、土井由利子編、南江堂<br>『参加型 マタニティクラス BOOK』戸田律子著、医学書院、2010.  |
| 事前・<br>事後学修           | 授業で使う資料は授業時あるいは事前に提示します。事前・事後学修に活用してください。<br>個々に保健指導案の作成を行い、自分の意見をいえるように準備する。<br>グループで個々の指導案の共有を行い、グループでの指導案を作成する。  |
| オフィス<br>アワー           | 金曜日の午後 研究室 1715<br>久保田君枝 ; <a href="mailto:kimie-k@seirei.ac.jp">kimie-k@seirei.ac.jp</a>   |
| 実務経験に<br>に関する記述       | 臨床において、個別・集団指導の実践を有し、地域活動においても実践をしている。<br>外部講師は地域において、長年に亘り保健指導や訪問活動への実績を有している。   |

|                                |  |                       |       |                           |       |                   |       |                                |       |                     |       |
|--------------------------------|--|-----------------------|-------|---------------------------|-------|-------------------|-------|--------------------------------|-------|---------------------|-------|
| 科目名                            | ウイメンズヘルス論  |                       |       |                           |       |                   |       |                                |       |                     |       |
| 科目責任者                          | 稻垣 恵子  |                       |       |                           |       |                   |       |                                |       |                     |       |
| 単位数他                           | 1 単位 (15 時間) 必修 通年   |                       |       |                           |       |                   |       |                                |       |                     |       |
| 科目的位置付                         | 女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する権利を尊重し、女性の主体性を尊重したケアの実践者であること。   |                       |       |                           |       |                   |       |                                |       |                     |       |
| 科目概要                           | 女性のライフサイクルにおける心身の健康問題を支援するために必要な知識と技術を学修する。そのために、1)女性とパートナーに対する支援方法、2)中高年女性に対する支援方法、3) DVの加害者・被害者の実態を学ぶ、4)妊娠中や出産後、更年期の女性に行われているヨーガやアロマセラピーの実際等を学修する。   |                       |       |                           |       |                   |       |                                |       |                     |       |
| 到達目標                           | <ol style="list-style-type: none"> <li>妊娠中や出産後の女性および更年期の女性に行われているヨーガや、アロマセラピーなどの目的や支援方法を説明できる。</li> <li>女性とパートナーに対する支援方法を説明できる。</li> <li>中高年女性に対する支援方法を説明できる。</li> <li>DVの加害者・被害者の実態を理解する。</li> </ol>  |                       |       |                           |       |                   |       |                                |       |                     |       |
| 授業計画                           | <p style="text-align: center;">&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">第 1-2 回：周産期におけるヨーガの実際</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">小森やえ子</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：助産師が活用できるアロマセラピーの実際</td> <td style="text-align: right;">小森やえ子</td> </tr> <tr> <td>第 4-5 回：中高年に対する支援</td> <td style="text-align: right;">永谷 実穂</td> </tr> <tr> <td>第 6-7 回：DVの概要とDVの加害者と被害者の実態と課題</td> <td style="text-align: right;">山田久美子</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：里親制度と里親の現状と課題</td> <td style="text-align: right;">入江 礼奈</td> </tr> </table> | 第 1-2 回：周産期におけるヨーガの実際 | 小森やえ子 | 第 3 回：助産師が活用できるアロマセラピーの実際 | 小森やえ子 | 第 4-5 回：中高年に対する支援 | 永谷 実穂 | 第 6-7 回：DVの概要とDVの加害者と被害者の実態と課題 | 山田久美子 | 第 8 回：里親制度と里親の現状と課題 | 入江 礼奈 |
| 第 1-2 回：周産期におけるヨーガの実際          | 小森やえ子  |                       |       |                           |       |                   |       |                                |       |                     |       |
| 第 3 回：助産師が活用できるアロマセラピーの実際      | 小森やえ子  |                       |       |                           |       |                   |       |                                |       |                     |       |
| 第 4-5 回：中高年に対する支援              | 永谷 実穂  |                       |       |                           |       |                   |       |                                |       |                     |       |
| 第 6-7 回：DVの概要とDVの加害者と被害者の実態と課題 | 山田久美子  |                       |       |                           |       |                   |       |                                |       |                     |       |
| 第 8 回：里親制度と里親の現状と課題            | 入江 礼奈  |                       |       |                           |       |                   |       |                                |       |                     |       |

|               |  |
|---------------|--|
| アクティブラーニング    | グループ学修、助産ケアの体験   |
| 評価方法          | 筆記試験 70%、レポート 30%  |
| 課題に対するフィードバック | レポート、リアクションペーパーへのコメント  |
| 指定図書          | 『助産学講座 2 基礎助産学[2]母子の基礎科学』我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院<br>『助産学講座 3 基礎助産学[3]母子の健康科学』我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院<br>『助産学講座 4 基礎助産学[4]母子の心理・社会学』村瀬聰美・我部山キヨ子編集、医学書院<br>『助産学講座 5 助産診断・技術学 I』堀内成子編集、医学書院<br>『助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健』我部山キヨ子・毛利多恵子編集、医学書院 |
| 参考図書          | 適時提示します  |
| 事前・事後学修       | 授業で使う資料は授業時あるいは事前に提示します。事前・事後学修に活用してください。<br>この授業では、事前学習、事後学修を行ってください。   |
| オフィスアワー       | 科目責任者：稻垣恵子、助産学専攻科、1611 研究室、木曜日午後<br>メールアドレス keiko-i@seirei.ac.jp   |
| 実務経験に関する記述    | 本科目の講師は地域において活動家として、助産師として豊かな実践を有している講師陣です。  |

|        |   |       |
|--------|---|-------|
| 科目名    | 親子関係論   |       |
| 科目責任者  | 藤本 栄子   |       |
| 単位数他   | 1 単位 (15 時間) 必修 春セメスター  |       |
| 科目的位置付 | 助産師として必要な、人間や環境への思いやりを大切にし、母子およびその家族を尊重し、助産師としての役割と責任を果たす能力を習得していること。   |       |
| 科目概要   | 親子を支援するために、母子・父子関係の基本的な概念理論を学び、母性・父性の愛着行動の特質と親子関係を阻害する要因について学ぶ。   |       |
| 到達目標   | 1. 周産期における親子関係成立過程と支援方法が理解できる。<br>2. 母子の心理的支援方法が理解できる。  |       |
| 授業計画   | <授業内容・テーマ等>   |       |
|        | 第1回： 親子関係を知る意義  | 藤本栄子  |
|        | 第2-3回： 親子（母子・父子）の関係性の発展過程と影響要因<br>・妊娠前<br>・妊娠中<br>・出産をめぐって<br>・育児期<br>母子関係についてはルービン、マーサー、鯨岡 峻ら、父子関係についてはグリーンバーグ等より学び、臨床における看護場面の理解を深める。 | 藤本栄子  |
|        | 第4-5回： 親子の関係性を育む支援について<br>・早期接觸<br>・カンガルーケア<br>・母乳哺育  | 藤本栄子  |
|        | 第6-8回： 乳幼児の発達・親の発達と親子関係への支援<br>主として、ボウルビィ、エインスワース、マーラー、エリクソン、フロイト、ウェニコットなどから心理的側面を学び、支援のあり方を理解する。                                       | 宮城島恭子 |
|        |   |       |
|        |   |       |
|        |   |       |
|        |   |       |

|               |   |
|---------------|---|
| アクティブラーニング    | グループ学修、課題の発表  |
| 評価方法          | 授業・グループワークへの参加度 20%、課題レポート 80%  |
| 課題に対するフィードバック | グループ・ワーク時のアドバイス、発表時のコメント<br>リアクションペーパーへのコメント  |
| 指定図書          | なし  |
| 参考図書          | 授業中に紹介する。<br>『助産学講座3 基礎助産学 [3] 母子の健康科学』武谷雄二・前原澄子編、医学書<br>『助産学講座4 基礎助産学 [4] 母子の心理・社会学』村瀬聰美、我部山キヨ子編、医学書院 2008 |
| 事前・事後学修       | ・ Moodle または授業の最後に、次回授業までの課題を提示する。<br>※詳細は、第1回のオリエンテーションで説明する。  |
| オフィスアワー       | 藤本栄子 (1714 研究室: <a href="mailto:eiko-f@seirei.ac.jp">eiko-f@seirei.ac.jp</a> ) 金曜日 12:00~13:00              |
| 実務経験に関する記述    | 本科目は「助産師」または「看護師」の資格および実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。   |

| 科目名                     | 助産管理論  |  |             |         |             |       |             |       |                   |       |               |       |                 |       |                         |       |                         |       |                         |       |                       |       |                        |       |                  |     |
|-------------------------|--|--|-------------|---------|-------------|-------|-------------|-------|-------------------|-------|---------------|-------|-----------------|-------|-------------------------|-------|-------------------------|-------|-------------------------|-------|-----------------------|-------|------------------------|-------|------------------|-----|
| 科目責任者                   | 久保田 君枝   |  |             |         |             |       |             |       |                   |       |               |       |                 |       |                         |       |                         |       |                         |       |                       |       |                        |       |                  |     |
| 単位数他                    | 2 単位 (30 時間) 必修 通年   |  |             |         |             |       |             |       |                   |       |               |       |                 |       |                         |       |                         |       |                         |       |                       |       |                        |       |                  |     |
| 科目的位置付                  | 保健医療福祉領域において助産師としての専門性を自覚し、他職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。   |  |             |         |             |       |             |       |                   |       |               |       |                 |       |                         |       |                         |       |                         |       |                       |       |                        |       |                  |     |
| 科目概要                    | 自立した助産業務確立への理解を深めるために、1) 助産業務に関する法的義務や責任、2) 助産施設の管理者としての助産業務管理および運営等について学ぶ。さらに、医療機関および助産所での実習を体験した後、妊娠褥婦および家族中心の助産管理、災害や医療事故を回避する助産管理等について学ぶ。  |  |             |         |             |       |             |       |                   |       |               |       |                 |       |                         |       |                         |       |                         |       |                       |       |                        |       |                  |     |
| 到達目標                    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産業務に関する法的義務や責任について説明できる。</li> <li>2. 病産院・助産所・診療所における助産業務管理の要点を説明できる。</li> <li>3. 院内助産所における助産業務について説明できる。</li> <li>4. 討論を通して患者中心の助産管理について自分の意見を述べることができる。</li> <li>5. 助産領域における医療事故の現状と予防と対応について説明できる。</li> <li>6. 災害時に備えた助産管理について自分の意見を述べることができる。</li> </ol>   |  |             |         |             |       |             |       |                   |       |               |       |                 |       |                         |       |                         |       |                         |       |                       |       |                        |       |                  |     |
| 授業計画                    | <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center; width: 50%;">&lt;授業内容・テーマ等&gt;</th> <th style="text-align: center; width: 50%;">&lt;担当教員名&gt;</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 5px;">第1回：助産管理の理論</td> <td style="padding: 5px;">久保田君枝</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第2回：管理のプロセス</td> <td style="padding: 5px;">久保田君枝</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第3-4回：助産師の法的責任と義務</td> <td style="padding: 5px;">久保田君枝</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第5回：周産期管理システム</td> <td style="padding: 5px;">久保田君枝</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第6回：助産サービスと医療経済</td> <td style="padding: 5px;">久保田君枝</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第7-8回：医療機関における助産業務管理の実際</td> <td style="padding: 5px;">爪田久美子</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第9-10回：助産所における助産業務管理の実際</td> <td style="padding: 5px;">高橋 明美</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第11回：院内助産所における助産業務管理の実際</td> <td style="padding: 5px;">鈴木 寿子</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第12回：診療所における助産業務管理の実際</td> <td style="padding: 5px;">小森やえ子</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第13-14回：医療事故とリスクマネジメント</td> <td style="padding: 5px;">池田 千夏</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第15回：災害時に備えた助産管理</td> <td style="padding: 5px;">( )</td> </tr> </tbody> </table> |  | <授業内容・テーマ等> | <担当教員名> | 第1回：助産管理の理論 | 久保田君枝 | 第2回：管理のプロセス | 久保田君枝 | 第3-4回：助産師の法的責任と義務 | 久保田君枝 | 第5回：周産期管理システム | 久保田君枝 | 第6回：助産サービスと医療経済 | 久保田君枝 | 第7-8回：医療機関における助産業務管理の実際 | 爪田久美子 | 第9-10回：助産所における助産業務管理の実際 | 高橋 明美 | 第11回：院内助産所における助産業務管理の実際 | 鈴木 寿子 | 第12回：診療所における助産業務管理の実際 | 小森やえ子 | 第13-14回：医療事故とリスクマネジメント | 池田 千夏 | 第15回：災害時に備えた助産管理 | ( ) |
| <授業内容・テーマ等>             | <担当教員名>  |  |             |         |             |       |             |       |                   |       |               |       |                 |       |                         |       |                         |       |                         |       |                       |       |                        |       |                  |     |
| 第1回：助産管理の理論             | 久保田君枝  |  |             |         |             |       |             |       |                   |       |               |       |                 |       |                         |       |                         |       |                         |       |                       |       |                        |       |                  |     |
| 第2回：管理のプロセス             | 久保田君枝  |  |             |         |             |       |             |       |                   |       |               |       |                 |       |                         |       |                         |       |                         |       |                       |       |                        |       |                  |     |
| 第3-4回：助産師の法的責任と義務       | 久保田君枝  |  |             |         |             |       |             |       |                   |       |               |       |                 |       |                         |       |                         |       |                         |       |                       |       |                        |       |                  |     |
| 第5回：周産期管理システム           | 久保田君枝  |  |             |         |             |       |             |       |                   |       |               |       |                 |       |                         |       |                         |       |                         |       |                       |       |                        |       |                  |     |
| 第6回：助産サービスと医療経済         | 久保田君枝  |  |             |         |             |       |             |       |                   |       |               |       |                 |       |                         |       |                         |       |                         |       |                       |       |                        |       |                  |     |
| 第7-8回：医療機関における助産業務管理の実際 | 爪田久美子  |  |             |         |             |       |             |       |                   |       |               |       |                 |       |                         |       |                         |       |                         |       |                       |       |                        |       |                  |     |
| 第9-10回：助産所における助産業務管理の実際 | 高橋 明美  |  |             |         |             |       |             |       |                   |       |               |       |                 |       |                         |       |                         |       |                         |       |                       |       |                        |       |                  |     |
| 第11回：院内助産所における助産業務管理の実際 | 鈴木 寿子  |  |             |         |             |       |             |       |                   |       |               |       |                 |       |                         |       |                         |       |                         |       |                       |       |                        |       |                  |     |
| 第12回：診療所における助産業務管理の実際   | 小森やえ子  |  |             |         |             |       |             |       |                   |       |               |       |                 |       |                         |       |                         |       |                         |       |                       |       |                        |       |                  |     |
| 第13-14回：医療事故とリスクマネジメント  | 池田 千夏  |  |             |         |             |       |             |       |                   |       |               |       |                 |       |                         |       |                         |       |                         |       |                       |       |                        |       |                  |     |
| 第15回：災害時に備えた助産管理        | ( )  |  |             |         |             |       |             |       |                   |       |               |       |                 |       |                         |       |                         |       |                         |       |                       |       |                        |       |                  |     |

|               |   |
|---------------|---|
| アクティブラーニング    | グループ学修、課題のプレゼンテーション   |
| 評価方法          | 筆記試験 80%、各グループのまとめレポート 20%  |
| 課題に対するフィードバック | リアクションペーパー、レポートへのコメント   |
| 指定図書          | <p>『助産師基礎教育テキスト3 周産期における医療の質と安全』成田伸編、日本看護協会出版会</p> <p>『助産学講座1 助産学概論』我部山キヨ子・武谷雄二編、医学書院</p> <p>『助産学講座2 基礎助産学[2]母子の基礎科学』我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院</p> <p>『助産学講座3 基礎助産学[3]母子の健康科学』我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院</p> <p>『助産学講座4 基礎助産学[4]母子の心理・社会学』村瀬聰美・我部山キヨ子編集、医学書院</p> <p>『助産学講座5 助産診断・技術学I』堀内成子編集、医学書院</p> <p>『助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健』我部山キヨ子・毛利多恵子編集、医学書院</p> <p>『院内助産・助産外来ガイドライン 2018』日本看護協会</p> |
| 参考図書          | 『新版 助産師業務要覧第3版 I～III』福井トシ子編集、日本看護協会出版会  |
| 事前・事後学修       | <p>授業で使う資料は授業時あるいは事前に配布します。事前・事後学修に活用してください。</p> <p>到達目標の内容について、事前学修を行い、理解できない点を発言して理解を深め、事後学修で思考の整理をしてください。</p> <p>災害時における助産管理について、過去の災害からの学びを事前学修しておいてください。</p> <p>この授業では、事前学修40分程度、事後学修40分程度の学修を行ってください。</p>   |
| オフィスアワー       | 金曜日の午後 研究室1715<br>久保田君枝 ; <a href="mailto:kimie-k@seirei.ac.jp">kimie-k@seirei.ac.jp</a>  |
| 実務経験に関する記述    | 本科目の講師は、臨床において管理者として助産管理の実践を有している助産師です。   |

|        |   |                      |
|--------|---|----------------------|
| 科目名    | 助産診断学   |                      |
| 科目責任者  | 稻垣 恵子   |                      |
| 単位数他   | 2 単位 (30 時間) 必修 春セメスター  |                      |
| 科目的位置付 | 助産師として必要な母子およびその家族や地域の人々に寄り添い、対象を全人的に捉え、ニーズに応えるための高度な診断能力および科学的根拠に基づいた質の高い助産技術と実践力を身につけていくこと。   |                      |
| 科目概要   | 正常な妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象およびその家族の QOL を高めるために、各期における経過の診断を学習する。そのために、助産診断の概念や考え方の理解を深め、対象者の各時期の経過・健康生活のアセスメントをするために必要な基本的知識ならびに助産診断と助産計画立案の方法を学ぶ。さらに各時期の経過・健康生活を継続して理解するために妊娠・分娩・産褥期を通して事例検討を行う。                          |                      |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 正常な妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象およびその家族の把握に必要な基礎的知識を習得できる。</li> <li>2. 各時期の経過を診断することができる。</li> <li>3. 各時期の経過に応じた助産計画を立案することができる。</li> <li>4. 妊娠・分娩・産褥・新生児期を通して事例検討することができる。</li> </ol> |                      |
| 授業計画   | <授業内容・テーマ等><br><br>第 1-3 回：妊娠期（母体・胎児）の助産診断<br>妊娠期のフィジカルアセスメント<br>妊娠週数に応じた身体・心理社会的側面からの診断  | <担当教員名><br><br>三輪与志子 |
|        | 第 4-5 回：妊娠期の事例展開  | 三輪与志子、稻垣恵子、久保田君枝     |
|        | 第 6-8 回：分娩期の助産診断<br>分娩期のフィジカルアセスメント、分娩が母児に与える影響<br>分娩開始の診断と進行診断、母児の適応診断、心理社会的側面からの診断  | 久保田君枝                |
|        | 第 9-10 回：分娩期の事例展開   | 久保田君枝、稻垣恵子、三輪与志子     |
|        | 第 11-13 回：産褥期・新生児期の助産診断<br>産褥期のフィジカルアセスメント、褥婦の心理社会的側面の診断<br>母乳育児に関する診断、育児能力（ディペンデントケア能力）の診断<br>出生直後の新生児の診断、正常経過にある新生児のフィジカルアセスメント、新生児ハイリスク因子の診断   | 稲垣恵子                 |
|        | 第 14-15 回：産褥期および新生児期の事例展開   | 稲垣恵子、久保田君枝、三輪与志子     |

|               |  |
|---------------|--|
| アクティブラーニング    | 紙上事例のグループワーク   |
| 評価方法          | 筆記試験 70%、グループワークの発表（内容・プレゼンテーション）30%   |
| 課題に対するフィードバック | グループワーク時のアドバイス、発表時のコメント、リアクションペーパーへのコメント   |
| 指定図書          | <p>『助産師基礎教育テキスト2 女性の健康とケア』吉澤豊子他編、日本看護協会出版会<br/>     『助産師基礎教育テキスト4 妊娠期の診断とケア』森恵美他編、日本看護協会出版会<br/>     『助産師基礎教育テキスト5 分娩期の診断とケア』町浦美智子他編、日本看護協会出版会<br/>     『助産師基礎教育テキスト6 産褥期のケア・新生児期・乳幼児期のケア』横尾京子他編、日本看護協会出版会<br/>     『新生児学入門』仁志田博司、医学書院<br/>     『母乳育児支援スタンダード』NPO 法人日本ラクトーションコンサルタント協会、医学書院<br/>     『助産学講座6 助産診断・技術学II(1)妊娠期』我部山キヨ子・武谷雄二他編、医学書院<br/>     『助産学講座7 助産診断・技術学II(2)分娩期・産褥期』我部山キヨ子・武谷雄二他編、医学書院<br/>     『助産学講座8 助産診断・技術学II(3)新生児・乳幼児期』横尾京子編、医学書院<br/>     『プリンシップル産科婦人科学2』武谷雄二他監修、メジカルビュー社<br/>     『胎児心拍数モニタリング講座』藤森敬也、MC メディカ出版<br/>     『実践マタニティ診断』日本助産診断・実践研究会編、医学書院<br/>     『助産業務ガイドライン』日本助産師会   </p> |
| 参考図書          | <p>『最新産科学・正常編』荒木勤著、文光堂<br/>     『最新産科学・異常編』荒木勤著、文光堂<br/>     『助産師のためのフィジカルイグザミネーション』我部山キヨ子・大石時子編、医学書院<br/>     『今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程』北川眞理子・内山和美編、南江堂<br/>     『フリースタイル分娩介助 DVDで学ぶ開業助産師の「わざ」』村上明美編著、医歯薬出版   </p>   |
| 事前・事後学修       | <p>アセスメントに必要な形態機能学の基礎知識、妊娠・分娩・産褥・新生児期の経過と診断基準の事前・事後学修を1コマあたり40分を程度行ってください。</p> <p>グループワークを中心に行います。紙上事例の展開では、事前学修として①グループワーク前の個人ワーク、②グループ発表の準備を行ってください。事後学修はフィードバックをもとに復習をしてください。</p>   |
| オフィスアワー       | 科目責任者：稻垣恵子、助産学専攻科、1611 研究室、木曜日午後<br>メールアドレス keiko-i@seirei.ac.jp   |
| 実務経験に関する記述    | 本科目は「助産師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。   |

|        |   |  |
|--------|---|--|
| 科目名    | 助産技術学 I   |  |
| 科目責任者  | 三輪 与志子  |  |
| 単位数他   | 3 単位 (90 時間) 必修 通年  |  |
| 科目的位置付 | 助産師として必要な母子およびその家族や地域の人々に寄り添い、対象を全人的に捉え、ニーズに応えるための高度な診断能力および科学的根拠に基づいた質の高い助産技術と実践力を身につけていくこと。                                       |  |
| 科目概要   | 妊娠婦の主体性を尊重しながら正常分娩に対応するために、助産診断に基づいた妊娠・分娩・産褥および胎児・新生児に対する援助技術および助産技法を学修する。さらに実践力を高めるために学内演習において分娩介助技術の確認を行う。                        |  |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠・分娩・産褥期および胎児・新生児期の助産診断に基づく援助方法、助産技術を修得できる。</li> <li>2. 正常経過における分娩介助技術を修得できる。</li> </ol> |  |
| 授業計画   | <授業内容・テーマ等>   |  |
|        | <担当教員名>   |  |
|        | 第1回 : 助産援助技術概論、妊娠期の援助<br>正常経過にある妊婦の日常生活への援助、家族への援助<br>妊婦の身体的（日常生活・マイナートラブル）、心理・社会的变化に対する援助  |  |
|        | 第2-5回 : 妊娠期の援助<br>三輪与志子、岡本沙衣子、稻垣恵子、久保田君枝<br>妊婦健康診査：レオポルド触診法、胎児心音測定、子宮底・腹囲測定   |  |
|        | 第6回 : パースプランとパースレビュー<br>稻垣恵子  |  |
|        | 第7-8回 : 分娩期の援助<br>梅田奈智加、久保田君枝、稻垣恵子、三輪与志子<br>産婦および家族への援助 分娩準備教育：産痛緩和・呼吸法・補助動作  |  |
|        | 第9回 : 分娩機転、胎児の下降と内診所見<br>久保田君枝  |  |
|        | 第10-21回 : 分娩介助技術<br>古橋昭世、稻垣恵子、久保田君枝、三輪与志子<br>正常分娩の娩出機転、分娩介助技術、内診技術<br>分娩進行に応じた基本技術（導尿、人工破膜）、出生直後の新生児ケア                              |  |
|        | 第22-29回 : 分娩介助技術確認<br>稻垣恵子、久保田君枝、三輪与志子<br>分娩介助技術評価、評価後の技術確認   |  |
|        | 第30-31回 : 出生直後の新生児の観察とケア<br>稻垣恵子、久保田君枝、三輪与志子  |  |
|        | 第32-37回 : 産褥・新生児期の援助<br>三輪与志子、稻垣恵子、久保田君枝<br>正常経過にある褥婦の観察とケア<br>産後の家庭生活に向けての援助（育児技術取得、家族計画）<br>新生児の胎外生活適応のための援助                      |  |
|        | 第38-39回 : 母乳育児促進への援助<br>國枝康代  |  |
|        | 第40-41回 : 周産期のメンタルヘルスケア<br>國分真佐代  |  |
|        | 第42-43回 : フリースタイル出産の分娩介助技術<br>秋葉志帆  |  |
|        | 第44-45回 : ハイリスク新生児へのケア<br>三輪与志子、久保田君枝、稻垣恵子  |  |

|               |   |
|---------------|---|
| アクティブラーニング    | シミュレーショントレーニング（模擬妊婦への健康診査技術演習、分娩介助演習、内診・人工破膜演習、ハイリスク新生児へのケア、）   |
| 評価方法          | 筆記試験 70% 分娩介助技術チェック 30%   |
| 課題に対するフィードバック | 分娩介助技術評価後に担当教員が個別でコメントし、必要時個別で技術の再確認を行う。<br>指導技術演習の発表時にコメント、リアクションペーパーへのコメント等   |
| 指定図書          | 『助産師基礎教育テキスト第4巻 妊娠期の診断とケア』森恵美他編 日本看護協会出版会<br>『助産師基礎教育テキスト第5巻 分娩期の診断とケア』町浦美智子他編 日本看護協会出版会<br>『助産師基礎教育テキスト第6巻 産褥期のケア 新生児期・乳幼児期のケア』横尾京子他編<br>日本看護協会出版会<br>『新生児学入門』仁志田博司 医学書院<br>『母乳育児支援スタンダード』NPO 法人日本ラクトーションコンサルタント協会 医学書院<br>『助産学講座6 助産診断・技術学II [妊娠期]』我部山キヨ子・武谷雄二他編、医学書院<br>『助産学講座7 助産診断・技術学II [分娩期・産褥期]』我部山キヨ子・武谷雄二他編、医学書院<br>『助産学講座8 助産診断・技術学II [新生児・乳幼児期]』横尾京子編、医学書院<br>『実践マタニティ診断』日本助産診断・実践研究会編 医学書院<br>『助産業務ガイドライン』日本助産師会 |
| 参考図書          | 『正常分娩の助産術 トラブルへの対応と会陰裂傷縫合』進純郎・堀内成子 医学書院<br>『助産師のためのフィジカルイグザミネーション』我部山キヨ子・大石時子編 医学書院<br>その他、授業中に随時紹介します。   |
| 事前・事後学修       | ・「妊婦健康診査」「産痛緩和」「新生児の援助」については事前課題を提示します。<br>・國枝担当：スタンダードの母乳の歴史、母乳の利点について<br>事前課題は1コマあたり40分程度行い、該当する授業時に持参してください。<br>基本的な分娩介助技術や内診技術、新生児の診察および身体計測の自己学修などは、自主的に実習室で反復練習をしてください。   |
| オフィスアワー       | 三輪 与志子：1707 研究室 月曜日：16:30 ~18:30 水曜日：午前中<br>E-mail : <a href="mailto:yoshiko-m@seirei.ac.jp">yoshiko-m@seirei.ac.jp</a>   |
| 実務経験に関する記述    | 本科目は、臨床の助産師を講師として迎えており、実務の観点を踏まえて教授する科目です。妊婦健康審査の演習では、看護師または助産師の実務経験のある方に模擬妊婦さんになっていただき演習をします。  |

|        |   |
|--------|---|
| 科目名    | 助産技術学Ⅱ  |
| 科目責任者  | 稻垣 恵子   |
| 単位数他   | 1 単位 (30 時間) 必修 通年  |
| 科目的位置付 | 助産師として必要な母子およびその家族や地域の人々に寄り添い、対象を全人的に捉え、ニーズに応えるための高度な診断能力および科学的根拠に基づいた質の高い助産技術と実践力を身につけていくこと。   |
| 科目概要   | 医療の高度化に伴い助産診断・技術に対する社会的要請は高い。そのために現代の助産領域に必要な、1)胎児心拍数モニタリングや超音波診断装置からのデータの判読、2)新生児蘇生法や会陰縫合術の実際、3)ウイメンズヘルスケアの視点で子宮頸がん検査の実際、4)産痛緩和法の一つとしての無痛分娩について学習する。   |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 胎児心拍モニタリングや超音波診断装置からのデータを判読できる。</li> <li>2. 新生児蘇生法の技術（Aコース）を修得できる。</li> <li>3. 分娩に伴う軟産道、会陰部の損傷に対する知識・縫合術の基本を理解できる。</li> <li>4. 子宮頸がん検査における細胞採取技術の修得、子宮腔部の病変の観察技術を修得できる。</li> </ol>  |
| 授業計画   | <p style="text-align: center;">&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p style="text-align: right;">&lt;担当教員名&gt;</p> <p>第 1-2 回：胎児監視モニターの波形を判読、胎児診断の方法 今野 寛子</p> <p>第 3-4 回：超音波診断装置の画像を判読、胎児診断の方法 岡井 直子</p> <p>第 5-6 回：新生児仮死の診断 大木 茂</p> <p>第 7-9 回：新生児蘇生法(Aコース) 大木 茂</p> <p>第 10-11 回：会陰部縫合に必要な解剖・生理、縫合演習 塩島 聰</p> <p>第 12-13 回</p> <p style="margin-left: 2em;">(1)子宮頸がんの予防（一次予防、二次予防）に対する世界の動向 入駒 麻希</p> <p style="margin-left: 2em;">(2)子宮頸がんワクチンの現状（日本と諸外国）</p> <p style="margin-left: 2em;">(3)子宮頸がんの発生機序と検査方法（診断と治療）</p> <p style="margin-left: 2em;">(4)子宮頸がん検査の細胞採取の演習</p> <p>第 14-15 回：無痛分娩 入駒 慎吾</p> |

|               |   |
|---------------|---|
| アクティブラーニング    | 《胎児監視モニターの波形判読》専攻科教室のデスクトップパソコンにインストールした既存の教材で波形の判読ポイントを学修  |
| 評価方法          | 筆記試験 80%、課題レポート 20%   |
| 課題に対するフィードバック | レポートの返却   |
| 指定図書          | <p>『助産学講座 2 基礎助産学[2] 母子の基礎科学』我部山キヨ子・武谷雄二編、医学書院<br/>     『助産学講座 3 基礎助産学[3] 母子の健康科学』我部山キヨ子・武谷雄二編、医学書院<br/>     『助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期』我部山キヨ子・武谷雄二他編、医学書院</p> <p>『助産師基礎教育テキスト第 2 卷 女性の健康とケア』吉澤豊予子編集、日本看護協会出版<br/>     『助産師基礎教育テキスト第 7 卷 ハイリスク妊娠婦婦・新生児へのケア』遠藤俊子他編、日本看護協会出版</p> <p>『プリンシップル産科婦人科学 2』武谷雄二他監修、メディカルビュー社</p> <p>『胎児心拍数モニタリング講座』藤森敬也、MC メディカ出版</p> <p>『日本版救急蘇生ガイドライン 2015 に基づく新生児蘇生法テキスト』田村正徳監修、メディカルビュー社</p> <p>『新生児学入門』仁志田博司、医学書院</p> <p>『正常分娩の助産術 トラブルへの対応と会陰裂傷縫合』進純郎・堀内成子、医学書院</p> <p>『ペリネイタルケア 特集「超音波画像よみ方道場」』、Vol. 38、No. 1、2019、メディカ出版</p> |
| 参考図書          | <p>『手技や判読のコツが動画で確認できる産科超音波検査ポケットブック』正岡博、Vol. 38、No. 1、2019、日総研</p> <p>『ペリネイタルケア 特集「無痛分娩を含めた産通緩和ケア」』、Vol. 35、No. 2、2016、メディカ出版</p>   |
| 事前・事後学修       | 《新生児蘇生法》「新生児蘇生法テキスト」に沿って 1 コマあたり 40 分程度を目安に自己学習、自主的に実習室で自己練習を行ってください。   |
| オフィスアワー       | 科目責任者：稻垣恵子、助産学専攻科、1611 研究室、木曜日午後<br>メールアドレス keiko-i@seirei.ac.jp  |
| 実務経験に関する記述    | 本科目は「医師」または「臨床検査技師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。  |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | 助産診断・技術学実習   |
| 科目責任者  | 稻垣 恵子  |
| 単位数他   | 8 単位 (360 時間) 必修 通年  |
| 科目的位置付 | 助産師として必要な母子およびその家族や地域の人々に寄り添い、対象を全人的に捉え、ニーズに応えるための高度な診断能力および科学的根拠に基づいた質の高い助産技術と実践力を身につけていくこと。  |
| 科目概要   | 対象者を総合的に理解し、妊娠・分娩・産褥期および新生児期の助産過程を継続的に展開し、正常分娩を中心とした助産を安全性と快適性に配慮しながら実践できるために必要な基本的知識・技術を習得する。また、妊娠期から産褥期まで継続して受け持つことで実践力の向上をめざす。さらに、対象者の主体性や人格を尊重する姿勢と対象者の権利を擁護する助産師としての倫理観を養い、他専門職種との連携・協働の重要性の理解を深める。   |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>分娩期における助産診断を行い、ケア計画を立案し助産ができる。</li> <li>母子および家族の健康生活に必要な援助ができる。</li> <li>新生児の健康診査に基づき、胎外生活への順調な適応のための援助ができる。</li> <li>母子・父子・家族関係の円滑な形成・維持のための援助を体験できる。</li> <li>妊娠、分娩、産褥、新生児、育児期の継続的な助産過程の展開を行い援助ができる。</li> <li>ハイリスク児とその家族への支援について理解を深めることができる。</li> <li>助産師の専門性について理解を深めることができる。</li> <li>助産師としての基本的態度を身につけることができる。</li> </ol>  |
| 授業計画   | <p style="text-align: center;">&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p style="text-align: right;">稻垣恵子、久保田君枝、三輪与志子、黒野智子、神崎江利子</p> <p style="text-align: center;">1. 病院・診療所における褥婦・新生児の援助の実施<br/>     2. 分娩介助の実施<br/>     3. 助産所における妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族の援助の実施<br/>     4. NICU・GCU における新生児およびその家族の援助の見学・実施<br/>     5. MFICU における妊婦・産婦・褥婦の援助の見学・実施</p> <p style="text-align: center;">詳細に関しては実習オリエンテーションで説明します。<br/>     「助産学専攻科実習てびき」に基づいて実習します。</p> |

|                       |   |
|-----------------------|---|
| アクティブ<br>ラーニング        | 「実習科目です。」<br>「実習まとめ」発表会は学生主体で運営、進行します。  |
| 評価方法                  | 「助産学専攻科実習てびき」を参照してください。   |
| 課題に対する<br>フィード<br>バック | 「分娩介助技術（直接介助・間接介助）」形成評価、実習記録返却時のコメント  |
| 指定図書                  | 全ての指定図書を活用してください。   |
| 参考図書                  | 必要時、提示します。  |
| 事前・<br>事後学修           | 実習前に妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の生理的な経過および各期に必要な保健指導の内容を自己学習してください。実習中の日々の事前学修60分、事後学修（実習の振り返り、助産過程の展開）は60～120分を目安に行ってください。 |
| オフィス<br>アワー           | 稻垣恵子、助産学専攻科、1611研究室、木曜日午後<br>メールアドレス keiko-i@seirei.ac.jp   |
| 実務経験に<br>関する記述        | 本科目は「助産師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。  |

|        |  |
|--------|--|
| 科目名    | 助産業務管理実習   |
| 科目責任者  | 久保田 君枝   |
| 単位数他   | 1 単位 (45 時間) 必修 秋セメスター   |
| 科目的位置付 | 助産師としての誇りを持つと同時に、自己に対する真摯な態度と品位を持ち続け、生涯にわたり知的好奇心をもって研鑽していくための能力を修得していること   |
| 科目概要   | 「助産診断・技術学実習」を通して、業務管理責任者およびチームリーダーと共に行動し、母子保健チームにおける助産師の役割やリーダーシップの理解等、助産業務管理機能を学修する。また、施設内における他専門職種との連携・協働を通して、助産業務管理をマネジメントする基礎的能力を養う。   |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 産科病棟における助産業務内容を説明できる。</li> <li>2. 中間管理者と共に産科病棟における助産業務管理を体験する。</li> <li>3. 産科病棟・産婦人科外来における助産業務管理を管理者およびスタッフの立場のシャドーイングを通して理解することができる。</li> <li>4. カンファレンスを通して院内助産所における助産業務管理についての学びを報告することができる。</li> <li>5. 実習で学んだ内容をレポートにまとめることができる。</li> </ol> |
| 授業計画   | <p style="text-align: center;">&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p style="text-align: right;">&lt;担当教員名&gt;</p> <p>久保田君枝、稻垣恵子、三輪与志子他</p> <p>詳細に関しては、実習オリエンテーションで説明します。</p> <p>「助産学専攻科実習てびき」に基づいて実習します。</p>  |

|                       |   |
|-----------------------|---|
| アクティブ<br>ラーニング        | 実習科目です  |
| 評価方法                  | 実習記録および実習への参加態度 50%、レポート 50%  |
| 課題に対する<br>フィード<br>バック | 実習記録、レポートへのコメント   |
| 指定図書                  | 全ての指定図書を活用してください。   |
| 参考図書                  | 適時提示します   |
| 事前・<br>事後学修           | 産科病棟・院内助産・助産(師)外来における助産業務管理について、事前学修、事後学修を行ってください。  |
| オフィス<br>アワー           | 金曜日の午後 研究室 1715<br>久保田君枝 ; <a href="mailto:kimie-k@seirei.ac.jp">kimie-k@seirei.ac.jp</a> |
| 実務経験に<br>関する記述        | 臨床指導者は管理者の立場にある助産師、リーダー業務を担当できる助産師、スタッフの立場にある助産師です。<br>科目責任者は臨床において、管理者の経験を有している助産師です。    |

|        |   |
|--------|---|
| 科目名    | 地域助産学実習   |
| 科目責任者  | 稻垣 恵子   |
| 単位数他   | 1 単位 (45 時間) 必修 通年  |
| 科目的位置付 | 保健医療福祉領域において助産師としての専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。  |
| 科目概要   | 地域における子育て支援活動（子育て支援ひろばでの育児相談、新生児訪問、保健センターでの出産前教育および育児相談、母子健康手帳の交付など）、思春期相談・妊娠SOSを通して、対象が主体的に取り組むことができる支援方法を学習する。また、乳幼児の健康診査・予防接種の実際を学ぶ。それらを通して地域における他専門職種や他の組織との連携・協働の重要性や助産師の役割について理解を深める。   |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域における母子および家族の問題を説明できる。</li> <li>2. 問題解決のための支援を指導者と共に実施できる。</li> <li>3. 地域における多職種との連携・協働の実際を体験する。</li> <li>4. 妊婦やその家族が持っているセルフケア機能や能力を引き出せるような援助の実際を体験できる。</li> <li>5. 実習で学んだ内容をレポートとしてまとめることができる。</li> </ol>   |
| 授業計画   | <p style="text-align: center;">&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p style="text-align: right;">&lt;担当教員名&gt;</p> <p style="text-align: right;">稻垣恵子、久保田君枝、三輪与志子</p> <p>詳細に関しては実習オリエンテーションで説明します。<br/> 「助産学専攻科実習てびき」に基づいて実習します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 思春期健康相談室（ピアーズ・ポケット）・静岡妊娠SOS電話相談</li> <li>2. 引佐子育て支援ひろば</li> <li>3. 浜松市母子訪問</li> <li>4. 小児科クリニック（わんぱくキッズクリニック）</li> </ol> |

|                       |   |
|-----------------------|---|
| アクティブ<br>ラーニング        | 「実習科目です。」   |
| 評価方法                  | 「助産学専攻科実習てびき」を参照してください。<br>実習態度 60%、実習記録 40%  |
| 課題に対する<br>フィード<br>バック | 実習記録返却時のコメント  |
| 指定図書                  | 全ての指定図書を活用してください。   |
| 参考図書                  | 必要時、提示します。  |
| 事前・<br>事後学修           | 事前学修は、①母子保健に関する最新の動向、法律・施策ならびに地域における助産師の役割について自己学習、②浜松市オリエンテーションの内容をもとに浜松市および近隣地域の既存資料から情報収集し、地域特性を把握、③思春期の健康課題、乳幼児の成長発達および発達課題、予防接種について予習してください。事後学修は、実習の振り返りをもとに事前学修の内容と実際を比較し、60～120 分を目安に復習をしてください。 |
| オフィス<br>アワー           | 科目責任者：稻垣恵子、助産学専攻科、1611 研究室、木曜日午後<br>メールアドレス keiko-i@seirei.ac.jp  |
| 実務経験に<br>関する記述        | 本科目は「助産師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。  |

|        |   |
|--------|---|
| 科目名    | ウィメンズヘルス実習  |
| 科目責任者  | 三輪 与志子  |
| 単位数他   | 1 単位 (45 時間) 必修 通年  |
| 科目的位置付 | 保健医療福祉領域において助産師としての専門性を自覚し、多職種との連携、協働して、その責務を果たすことができる。   |
| 科目概要   | 人の性の発達段階を理解し、思春期における性と生殖をめぐる健康課題の支援に必要な基礎的能力を養う。そのために中学生を対象にした性教育の企画・準備・実施・評価の過程の実践を通して、性教育のスキルを学ぶ。   |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 思春期の性の発達の特徴と課題を説明できる。</li> <li>2. 中学生1、2年生と中学生3年生を対象にした性教育の企画・準備・実施・評価を実施し、健康教育の意義を理解できる。</li> <li>3. 健康教育の実施を通して、集団技法のスキルを修得する。</li> <li>4. 助産師の役割を理解できる。</li> </ol>   |
| 授業計画   | <p style="text-align: center;">&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p style="text-align: right;">&lt;担当教員名&gt;</p> <p style="text-align: right;">三輪与志子、久保田君枝、稻垣恵子</p> <p>4月 オリエンテーション<br/>企画書の作成</p> <p>5～6月 指導案の作成</p> <p>7月 リハーサル<br/>実施 日時：第1回目 2019年7月 18日（木） 中学3年生（50名）<br/>第2回目 2019年7月 19日（金） 中学1・2年生（100名）<br/>場所：聖隸クリストファー中・高等学校<br/>実習での学びの振り返り・アンケートの集計</p> <p>詳細に関しては、実習オリエンテーションで説明します。<br/>「助産学専攻科実習てびき」をご参照ください。</p> |

|               |  |
|---------------|--|
| アクティブラーニング    | 実習科目のため全体がアクティブラーニングです。<br>健康教育の企画・準備・実施・評価の過程を学生主体で実施します。   |
| 評価方法          | 企画・準備・実施・評価の過程への参加態度 70% 課題レポート 30%  |
| 課題に対するフィードバック | 実習中のコメント、レポートへのコメント  |
| 指定図書          | 「助産学講座 2 母子の基礎科学」我部山キヨ子・武谷雄二他編、医学書院<br>「助産学講座 3 母子の健康科学」我部山キヨ子・武谷雄二他編、医学書院<br>「助産学講座 5 助産診断・技術学 I」我部山キヨ子・武谷雄二他編、医学書院<br>「最新保健学講座 健康教育論」宮坂忠夫・川田智恵子・吉田亨編著 メヂカルフレンド社<br>授業で使用したもの全てを活用してください。   |
| 参考図書          | 「助産師のための性教育実践ガイド」川島広江・大石時子、医学書院<br>その他、授業中に随時紹介します。  |
| 事前・事後学修       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・性のライフサイクルからみた思春期の位置づけはどうなっているか、学習しておく。</li> <li>・思春期の特徴、思春期のセクシュアリティ・発達課題について学習しておく。</li> <li>・自分が思春期の中学生に伝えたいことは何か、またなぜそれを伝えたいのか、その根拠となる文献・データをあわせて、クラス内で発表できるようにまとめておく。</li> <li>・健康教育論の講義の復習をする。</li> </ul> |
| オフィスアワー       | 三輪 与志子：1707 研究室 月曜日：16:30 ~18:30 水曜日：午前中<br>E-mail : <a href="mailto:yoshiko-m@seirei.ac.jp">yoshiko-m@seirei.ac.jp</a>  |
| 実務経験に関する記述    | 本科目は「助産師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。   |

|                               |   |                       |       |                    |       |                 |       |                  |       |                               |       |                          |                  |                     |                  |
|-------------------------------|---|-----------------------|-------|--------------------|-------|-----------------|-------|------------------|-------|-------------------------------|-------|--------------------------|------------------|---------------------|------------------|
| 科目名                           | 助産学研究   |                       |       |                    |       |                 |       |                  |       |                               |       |                          |                  |                     |                  |
| 科目責任者                         | 久保田 君枝  |                       |       |                    |       |                 |       |                  |       |                               |       |                          |                  |                     |                  |
| 単位数他                          | 1 単位 (30 時間) 必修 通年  |                       |       |                    |       |                 |       |                  |       |                               |       |                          |                  |                     |                  |
| 科目的位置付                        | 助産師としての誇りを持つと同時に、自己に対する真摯な態度と品位を持ち続け、生涯にわたり知的好奇心をもって研鑽していくための能力を習得してきる  |                       |       |                    |       |                 |       |                  |       |                               |       |                          |                  |                     |                  |
| 科目概要                          | <p>妊娠褥婦および家族への支援が重要視されている中、助産師や多職種の人々からの、妊娠期からの切れ目のない親子への支援が出産や子育ての質に繋がることを理解する。さらに、妊娠褥婦の助産ケアを評価することが助産サービスの向上につながる。</p> <p>そこで、助産学研究では、継続事例の助産ケアの実際を通して、継続事例を振り返り、ケーススタディーにまとめる。その過程を通して、文献のクリティイクや対象者へのケアについて考え、事例からの学びを深める。</p>  |                       |       |                    |       |                 |       |                  |       |                               |       |                          |                  |                     |                  |
| 到達目標                          | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究することの意義がわかる。</li> <li>2. 研究のプロセスがわかる。</li> <li>3. 研究デザインとケーススタディーがわかる。</li> <li>4. 継続事例をケーススタディーとしてまとめ、発表することができる。</li> </ol>   |                       |       |                    |       |                 |       |                  |       |                               |       |                          |                  |                     |                  |
|                               | <p style="text-align: center;">&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p style="text-align: right;">&lt;担当教員名&gt;</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">第1回： ガイダンス ・研究の意義について</td> <td style="width: 40%;">久保田君枝</td> </tr> <tr> <td>第2-3回： 研究のプロセスについて</td> <td>久保田君枝</td> </tr> <tr> <td>第4-5回： 文献の活用と検討</td> <td>久保田君枝</td> </tr> <tr> <td>第6回： ケーススタディの進め方</td> <td>久保田君枝</td> </tr> <tr> <td>第7回： ケーススタディの抄録の書き方・発表の仕方について</td> <td>久保田君枝</td> </tr> <tr> <td>第8-13回： ケーススタディのまとめと抄録作成</td> <td>久保田君枝、稻垣恵子、三輪与志子</td> </tr> <tr> <td>第14-15回： ケーススタディの発表</td> <td>久保田君枝、稻垣恵子、三輪与志子</td> </tr> </table> | 第1回： ガイダンス ・研究の意義について | 久保田君枝 | 第2-3回： 研究のプロセスについて | 久保田君枝 | 第4-5回： 文献の活用と検討 | 久保田君枝 | 第6回： ケーススタディの進め方 | 久保田君枝 | 第7回： ケーススタディの抄録の書き方・発表の仕方について | 久保田君枝 | 第8-13回： ケーススタディのまとめと抄録作成 | 久保田君枝、稻垣恵子、三輪与志子 | 第14-15回： ケーススタディの発表 | 久保田君枝、稻垣恵子、三輪与志子 |
| 第1回： ガイダンス ・研究の意義について         | 久保田君枝   |                       |       |                    |       |                 |       |                  |       |                               |       |                          |                  |                     |                  |
| 第2-3回： 研究のプロセスについて            | 久保田君枝   |                       |       |                    |       |                 |       |                  |       |                               |       |                          |                  |                     |                  |
| 第4-5回： 文献の活用と検討               | 久保田君枝   |                       |       |                    |       |                 |       |                  |       |                               |       |                          |                  |                     |                  |
| 第6回： ケーススタディの進め方              | 久保田君枝   |                       |       |                    |       |                 |       |                  |       |                               |       |                          |                  |                     |                  |
| 第7回： ケーススタディの抄録の書き方・発表の仕方について | 久保田君枝   |                       |       |                    |       |                 |       |                  |       |                               |       |                          |                  |                     |                  |
| 第8-13回： ケーススタディのまとめと抄録作成      | 久保田君枝、稻垣恵子、三輪与志子  |                       |       |                    |       |                 |       |                  |       |                               |       |                          |                  |                     |                  |
| 第14-15回： ケーススタディの発表           | 久保田君枝、稻垣恵子、三輪与志子  |                       |       |                    |       |                 |       |                  |       |                               |       |                          |                  |                     |                  |
| 授業計画                          | <p>* 第60回 日本母性衛生学会・学術集会<br/>           (2019.10.11(金)～12(土) 場所：浦千葉県浦安市、会場：ヒルトン東京ベイ) 学会参加を予定している。</p> <p>*学会参加レポートの提出については事前オリエンテーションで説明します。</p>   |                       |       |                    |       |                 |       |                  |       |                               |       |                          |                  |                     |                  |

|                       |   |
|-----------------------|---|
| アクティブ<br>ラーニング        | グループ学修、受け持ち制継続事例の助産計画・ケアの実際、ケーススタディの発表  |
| 評価方法                  | ケーススタディのまとめ・抄録 80%、学会参加レポート 20%   |
| 課題に対する<br>フィード<br>バック | ケーススタディーのまとめ・抄録作成への個別指導、レポートへのコメント  |
| 指定図書                  | 全ての指定図書を活用してください。   |
| 参考図書                  | 適時提示します   |
| 事前・<br>事後学修           | 継続事例の妊娠期の保健指導、分娩期のケア、産褥期のケア等を計画的に準備を行い、保健指導に繋げる。<br>ケーススタディーのまとめ・抄録と発表の事前学修として、文献検索、文献の精読、継続事例を通して抄録の仮のテーマを準備する（12月中旬まで）。 |
| オフィス<br>アワー           | 金曜日の午後 研究室 1715<br>久保田君枝；kimie-k@seirei.ac.jp   |
| 実務経験に<br>関する記述        | 臨床において実務経験を有し、研究活動を通して、学会発表、学会誌への投稿などを行っている助産師です。   |

|        |   |
|--------|---|
| 科目名    | 宗教と生命   |
| 科目責任者  | 森田 恒一郎  |
| 単位数他   | 1 単位 (15 時間) 必修 春セメスター  |
| 科目的位置付 | 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた、高度な専門的知識・技術・態度を身に付け、高い倫理観と豊かな感性を取得し助産業務を通して必要な実践や学問の発展に寄与できること。  |
| 科目概要   | 聖書は人間の生命の起源、尊厳、維持などについて明確な教えを持っています。現代は科学技術の高度な発達が、人間の生命について、さまざまな課題を突きつけています。聖書の教える生命の基本的な教えを丁寧にとりあげ、現代の問題を共に考えます  |
| 到達目標   | 1. 生命の尊さについて習得する<br>2. キリスト教の視点から人の一生が有する価値・意味について考察する  |
| 授業計画   | <p style="text-align: center;">&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション<br/>聖書について：聖書を初めて読む人への基本的な概説</p> <p>第2回：生命を創造したのは神<br/>隣人愛について：イエスの教えと聖隸クリストファー大学の理念 I</p> <p>第3回：生命の尊厳<br/>聖隸クリストファー大学の理念 II<br/>シフラーとプア<br/>人間の「靈・心・体」の「靈」について</p> <p>第4回：Biotechnology からくる問題<br/>1980年代からの急速なtechnologyの発達</p> <p>第5回：生命を大切にする教育<br/>祈りについて</p> <p>第6回：宗教教育の大切さ<br/>安息日教育</p> <p>第7回：人生における苦しみ<br/>「ヨブ記」に学ぶ苦難について</p> <p>第8回：死の克服<br/>イエスの十字架の意味<br/>死の受容について<br/>死産を知らされた親への慰め</p> |

|                       |  |
|-----------------------|--|
| アクティブ<br>ラーニング        | なし                                     |
| 評価方法                  | 期末テスト（100%）によって評価する                    |
| 課題に対する<br>フィード<br>バック | なし                                     |
| 指定図書                  | 『聖書・新共同訳』（日本聖書協会発行、旧新約聖書合冊で統編がないもの）    |
| 参考図書                  | なし                                     |
| 事前・<br>事後学修           | キリスト教関連の文献や辞書の利用 聖書通読 大学礼拝への出席         |
| オフィス<br>アワー           | 授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。 |
| 実務経験に<br>関する記述        | 本科目は牧師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。  |

|        |   |
|--------|---|
| 科目名    | 家族社会学   |
| 科目責任者  | 笹原 恵  |
| 単位数他   | 1 単位 (15 時間) 必修 春セメスター  |
| 科目的位置付 | 助産師として必要な、人間や環境への思いやりを大切にし、母子およびその家族を尊重し、助産師としての責任を果たす能力を修得していること。  |
| 科目概要   | 本講義では、恋愛と結婚、晩婚化やシングル化、また生殖技術の変化がもたらした親子の問題など、現代の家族が直面する諸問題を考えることを通して、人々のもつ社会的側面への理解を深め、家族のあり方について考える。また、その中で、家族社会学の基礎的な概念や理論について学び、社会学的な思考、社会科学な視点から人々と家族、社会を考える視点を養成する。  |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現在の家族が直面する諸問題を社会学的に理解する。</li> <li>2. 人々の価値観や家族観の多様化、家族の多様化について理解する。</li> <li>3. 現代家族の諸問題を理解したうえで、自身の家族観を相対化する。</li> </ol>   |
| 授業計画   | <p style="text-align: center;">&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p style="text-align: right;">&lt;担当教員名&gt;</p> <p>第1回：ガイダンス～「家族」って何だろう</p> <p>第2回：生殖技術の変化と親子関係(1)<br/>複雑化する親子関係・誰が「親」か</p> <p>第3回：恋愛と結婚・多様な性（セックス・セクシュアリティ・ジェンダー）</p> <p>第4回：晩婚化・非婚化・シングル化・家族形態の多様化</p> <p>第5回：結婚・離婚～夫婦関係を考える～</p> <p>第6回：家族と人権</p> <p>第7回：生殖技術の変化と親子関係(2)<br/>不妊と子どもをもつことの意味一代理出産を考える</p> <p>第8回：まとめ</p> |

|               |  |
|---------------|--|
| アクティブラーニング    | *授業中に資料や映像資料を示し、それに対する受講生の意見を述べてもらい、受講生どうしの意見交換を行う<br>※次回の授業資料の一部を予め配付し、次回の授業までに読んできて意見を行ってもらうなど一部に反転授業を入れる。<br>*授業ごとに、振り返りを含めた小レポートを課すので、受講生は授業を振り返りつつ、自身の考えをまとめること ⇒ 小レポートへのリプライを次回の授業で行う。   |
| 評価方法          | 評価は①毎回の小レポート(70%)、②資料分析レポート(15%)、③最終レポート(15%)による。<br>→①講義のテーマをきちんととらえ、自分自身で考えているか、それを自分の言葉で表現しているかを評価する。<br>→②資料分析レポートは自身の関心に応じた資料・記事を探し、その概要をまとめるとともに、それについての自身の意見をきちんとまとめているかを評価する。<br>→③最終レポートは授業全体の振り返りを通し、自身の考え方や価値観、他者の考え方や価値観を相対化できたかどうか、家族について考える力がついたかどうかを評価する。 |
| 課題に対するフィードバック | ※小レポートに対する応答、コメントは次回の授業で行う。<br>※資料分析レポート、最終レポートについてのコメントを付する   |
| 指定図書          | 特になし。  |
| 参考図書          | 授業で紹介する。   |
| 事前・事後学修       | 授業開始後に、授業で取り上げる問題や現代の家族問題について説明し、それに関連した記事や書籍などを読むことを課題とし、事前学習とする。またその資料を読み込んだうえで、資料分析レポートを提出してもらう。<br>現代の家族問題を考えることを通して、自身の価値観・考え方を相対化できるような講義になれば…と思っています。楽しく勉強しましょう。  |
| オフィスアワー       | 授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。   |
| 実務経験に関する記述    | なし   |

|        |   |      |
|--------|---|------|
| 科目名    | 生命倫理論   |      |
| 科目責任者  | 稻垣 恵子   |      |
| 単位数他   | 1 単位 (15 時間) 必修 通年  |      |
| 科目的位置付 | 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた、高度な専門的知識・技術・態度を身につけ、高い倫理観と豊かな感性を取得し、助産業務を通して必要な実践や学問の発展に寄与できること。   |      |
| 科目概要   | 科学・医療技術の進歩によって引き起こされる倫理的・社会学的问题を理解し、人間として・医療専門職として QOL の向上について学修する。また、グループワークや討論を通して、生命倫理上の課題を考える機会とする。   |      |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>助産師は生命の尊厳を基盤とした職業人として、生命倫理の重要性を説明できる。</li> <li>助産師は人間の生命と健康にとっての環境について、生命倫理の視点から説明できる。</li> <li>グループワークや討論を通して、医療専門職として生命倫理上の課題について調べ、まとめ、報告することができる。</li> </ol>                           |      |
| 授業計画   | <p style="text-align: center;">&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1-3 回：生命倫理とは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①人工妊娠中絶と親の権利・胎児の権利</li> <li>②合併症に伴う妊娠中期中絶</li> <li>③胎児減数中絶と母体保護法</li> <li>④家族と生命倫理</li> <li>⑤生命倫理と環境</li> </ul> |      |
|        | <p>第 4 回：伝医学総論およびメンデル遺伝を中心とした遺伝のメカニズム</p>   | 西尾公男 |
|        | <p>第 5 回：遺伝子、染色体についての一般知識と遺伝学的検査の概要</p>   | 西尾公男 |
|        | <p>第 6 回：遺伝カウンセリングと出生前診断、遺伝相談<br/>(倫理的、社会的、法的問題を含む)</p>   | 西尾公男 |
|        | <p>第 7-8 回：遺伝相談 I・II グループワーク、討論</p>   | 西尾公男 |

|                       |  |
|-----------------------|--|
| アクティブ<br>ラーニング        | 「遺伝相談」 グループワーク   |
| 評価方法                  | 筆記試験 80%、課題レポート 20%  |
| 課題に対する<br>フィード<br>バック | レポートの返却  |
| 指定図書                  | 『助産学講座2 基礎助産学[2] 母子の基礎科学』我部山キヨ子・武谷雄二編、医学書院   |
| 参考図書                  | 隨時、提示します。  |
| 事前・<br>事後学修           | 倫理綱領について 120 分程度を目安に自己学習を行ってください。「遺伝相談」 グループワークの事前学修は、テーマに関する情報収集・発表準備を 80 分程度行ってください。事後学修は、講義内容やフィードバックをもとに 1 コマにつき 40 分程度の復習をしてください。 |
| オフィス<br>アワー           | 科目責任者：稻垣恵子、助産学専攻科、1611 研究室、木曜日午後<br>メールアドレス keiko-i@seirei.ac.jp   |
| 実務経験に<br>関する記述        | 本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。  |